

平成 26 年 9 月 30 日

平成 26 年度 国立大学図書館協会 海外派遣事業 参加報告書

大阪大学情報推進部
森石みどり

平成 26 年度国立大学図書館協会海外派遣事業により、カルフォルニア大学北部保存書庫、カルフォルニア大学カルフォルニアデジタルライブラリー、ユタ州立大学、ユタ大学を訪問し、調査を行ったので報告する。

1. 訪問期間

平成 26 年 9 月 2 日（火）～ 平成 26 年 9 月 7 日（日）

2. 訪問先 / 担当者

(1) the University of California. North Regional Library Facility / Ms. Charlotte C. Rubens

(2) the University of California. California Digital Library /

Ms. Emily Stambaugh, Ms. Danielle Watters Westbrook

(3) Utah State University. Merrill-Cazier Library /

Mr. John A. Elsweiler, Jr., Ms. Jennifer Duncan

(4) The University of Utah. J. Willard Marriott Library /

Ms. Sarah LeMire, Mr. Rick Anderson, Ms. Catherine B Soehner, Mr. Ian Godfrey

このほかに、Ms. Emily Stambaugh,らのご厚意により、以下の図書館も見学した。

the University of California. Berkeley, East Asian Library

the University of California. Berkeley, Doe Library

3. 調査内容

北米における、シェアード・プリント（共同保存）や自動書庫利用による、館内スペースの創出と活用について調査を行った。

米国の多くの共同保存プログラムの中でも、西部の 100 以上の研究図書館が参加する、冊子体雑誌バックナンバーを共同保存する WEST（Western Regional Storage Trust）について調査し、また、WEST 参加館における自動書庫の運用、WEST への協力、創出されたアクティブラーニングスペースとその活用に関しインタビューを行った。

4. 調査ヒアリング成果

(1) WEST の運営

WEST では、出版社や分野を区切らず、消失可能性（電子媒体の有無）と所蔵巻号の多さから保存館・保存環境を決めている。特定出版社の雑誌を保存する共同保存プログラム例では、他の資料の選定・保存に関しては、新たなプログラムの検討が必要になるが、WEST の場合は同じ基準と作業サイクルの元、保存雑誌の選定を継続することが可能である。

また参加館は、スペースの問題解決のため、関連する作業の労力の目測や今後の蔵書整理の予定などが立てやすくなっている。WEST の作業サイクルでは、各館所蔵データの提供から保存館決定、保存のための欠号補充等の作業を約1年で行う。保存された雑誌には、共同保存用のメタデータを入力し保存状況明示を義務付けている。共同保存された雑誌について、実際に除籍等の蔵書整理を行うかは各館にまかされている。

保存タイトルと保存館の選定は、幹事館 CDL で専用システムを利用し、雑誌とその所蔵巻号がもっとも多い館を抽出し、該当館へアーカイブ・ホルダーとして保存を依頼する。電子媒体がなく欠号や状態の確認と補充（Validation）作業が必要な雑誌の保存館は、アーカイブ・ビルダーと呼ばれ、1年かけて Validation を行い、欠号の寄贈依頼・補充もアーカイブ・ビルダーが行う。幹事館がすべて調整するのではなく、アーカイブ・ビルダーと他 WEST 参加館の協力の下、作業も分散して共同保存を進めている。

(2)自動書庫と共同保存（WEST 参加館）

WEST のアーカイブ・ホルダーでもアーカイブ・ビルダーでもなく、自動書庫によって自館の保存スペースが十分あると思われる図書館2館から、WEST プログラム他についてのお話を伺った。スペースが十分という共通点がありながら、違う意見を聞くことができたが、どちらの大学でも、共同保存の必要性は強く認識されていた。

ユタ州立大学：150万冊の自動書庫により自館のスペースの問題はないが、図書館協力として共同保存に賛同し、WEST プログラムに参加。自動書庫には雑誌や特別コレクションなどを収蔵するが、一般図書は10年間貸出のなかったものを入庫。アーカイブ・ビルダーから電子媒体のない雑誌巻号の提供を求められた際など、協力が難しいこともあるが、WEST プログラムへの参加は今後も継続し、アーカイブ・ホルダーになる可能性も高い。自館での要求にかかわらず、共同保存の必要性を認識していた。

ユタ大学：200万冊自動書庫を持ちながら、さらなる学習用スペース拡大のため今後も所蔵資料の整理が必要であり、WEST の共同保存に積極的に協力している。貸出数の激減と、増加する来館者の図書館における活発な活動から、自大学で必要とされる図書館のあり方を強く意識していた。自動書庫に入れる資料や蔵書整理を行う資料は、貸出状況と大学のカリキュラムを念頭に検討するとのこと。収蔵能力が大きい自動書庫も、地域資料をはじ

め、大学で保存すべき資料を保存し、開架スペースをさらにアクティブラーニングスペースに変換していくために、余裕があるとは考えられていなかった。

(3)アクティブラーニングスペースの創出と活用

複数の図書館で参考図書コーナーが、大閲覧室からの移動や規模の縮小によって、アクティブラーニングスペースや自習スペースに変換されていた。また比較的規模の小さい図書館でも、グループ学習室や授業のできるクラスルームを館内に備えていた。

ユタ大学では、多種多様な機器とソフトを多数用意することに加え、職員と教育を受けた学生サポーターによる利用サポートを提供することも当然とされていた。図書館員による3Dプリンターワークショップ等も開催され、多種多様な機器活用が可能となっていた。

さらに、今後タブレットの普及などによる学習スタイルの変化にあわせ、スペースのあり方の変化と拡大が常に意識されていた。

5. 所感

各館で「スペースの問題」は共通の課題として意識されていた。スペース創出のために蔵書整理が必要であるが、そのために複数の図書館で協力して保存の枠組みをしっかりと作るのが共同保存であり、スペースの問題は蔵書整理の問題ではなく、保存の問題であることを改めて確認した。

今回、自動書庫と共同保存を調査したが、自動書庫を整備し収容力が向上した場合でも、今後も資料は増加し、アクティブラーニングスペースの拡大も考えられるため、共同保存プログラムの必要性が認識されていると感じた。